

## 1 研究の趣旨

本校の教育目標は「心豊かで、たくましく生きる児童の育成」である。この教育目標が目指す児童像、及び、本校の児童の課題は、まさに「自発的、自治的に活動する」ことであり、これは特別活動の目指す自治的、自発的に行動する児童像そのものであると考えた。

よりよい生活づくりを学級・学校で行っていくためには、学級・学校集団を望ましい集団にしていくための段階を経た指導と実践が必要である。学年や学期の初日となる節目の日から数日間をどのように過ごすかが重要である。計画的にオリエンテーションを行い指導し、実践を重ねていくことで児童が主体的に充実した学級・学校のよりよい生活づくりに取り組み「なすことによって学ぶ」ことができるようにしていきたいと考えた。

## 2 研究の概要

### (1) 研究の対象

平成 24～26 年度 田村市立美山小学校の上学年児童

### (2) 実践内容

児童が望ましい集団活動を通してよりよい生活づくりを行っていくためには、児童の自主的、実践的な態度を育成していくことが欠かせない。SPDCAサイクルでの活動は、特別活動の指導原理である「なすことによって学ぶ」そのものであり、サイクルの定着により児童が主体的に活動をすることができる。

#### ① Standing (発起する、立ち上がる) 活動

ア オリエンテーションの実施 イ 事前の話合いの充実による問題の共有化 ウ 児童の実態把握

#### ② Plan (話合い) 活動

ア 主体的な話合い活動の充実 イ よりよい決定につながる集団思考の充実  
ウ 集団決定、自己決定の場の設定

#### ③ Do (実践・実行) 活動

ア 自発的・自治的な活動の充実 イ 発表の場の確保 ウ 全員による役割の分担

#### ④ Check (振り返り) 活動

ア 振り返りの基準となる教師の話 イ 児童の自己評価・相互評価での振り返り  
ウ 長期的な振り返りの積み重ね

#### ⑤ Action (見直し改善) 活動

ア サイクルの定着と積み重ね イ 振り返りの活用

## 3 成果と今後の課題

### (1) 成果

- ① 計画的な活動・支援、評価でSPDCAサイクルが定着し、児童が自主的・実践的に活動を継続して行うことができた。児童は発起する・立ち上がる活動（S）の充実により活動の目的を理解し意欲的に活動に臨み、自分の思いや願いを実現させることで、望ましい集団活動を実践していくことができた。
- ② 活動のサイクルが一つで終わるのではなく、見直し改善（A）活動が次の発起する・立ち上がる（S）活動につながってサイクルが連続し、児童が継続して「なすことによって学ぶ」ことができた。

### (2) 課題

特別活動は本研究のよりよい学級・学校の生活づくりだけでなく、生徒指導の中核的な場でもあり、キャリア教育やいじめ予防にも関わる重要な役割を果たすと考える。教師がそれぞれの指導のねらいを特別活動の目標や特質に即して活動していくことを心がけるようにしていきたい。